

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	ホルモン受容体陽性乳癌患者におけるアロマターゼ阻害薬治療中の骨密度変化に関する検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	肝胆膵・乳腺外科学 准教授 亀井義明
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2028年 3月 31日
対象となる方	2016年1月から2025年1月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち乳癌と診断され、術後補助療法としてアロマターゼ阻害薬による治療を開始された患者さん
利用する情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、治療開始時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等
研究の概要 (目的・方法)	乳癌の治療で使用されるアロマターゼ阻害薬 (AI) は、骨密度が低下する可能性があることが知られていますが、その低下の程度や進行の速さには個人差があります。本研究では、AI 治療中の骨密度の変化 (特に治療開始早期および長期的な変化) を評価するとともに、どのような患者さんで骨密度が低下しやすいかを明らかにすることを目的としています。 対象は、2016年1月から2025年1月までに当院で乳癌と診断され、術後補助療法として該当期間に AI 治療を開始した閉経後の患者さんです。カルテに記録された情報および骨密度検査結果 (腰椎 L2-4 の BMD(Bone Mineral Density)、YAM(Young Adult Mean)、T スコア) を用いて、治療開始前および治療中の骨密度関連指標(BMD、YAM、T スコア)の変化や変化率を解析します。また、骨密

	<p>度関連指標の低下により骨粗鬆症治療が必要となったかどうかについても検討します。なお、本研究のために新たな検査や治療を行うことはありません。</p>
個人情報の保護 について	<p>この研究で収集される情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。</p> <p>また、保管される情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	<p>愛媛大学医学部医学科 肝胆膵・乳腺外科学 亀井義明 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5327</p>